

Ono's Desk

熊日賞受賞に際し

7月12日ホテル日航熊本で「熊日賞」の贈呈式がありました。船津理事長も御出席下さりうれしい限りでした。画家宮崎静夫さんと一諸の受賞でした。同じ日に早速、熊本保健科学大学で「受賞祝賀会&暑気払い会」をして下さり135名もの皆様にお祝いをして頂きました。有難く恐縮しました。

受賞の理由に地域貢献などを挙げて頂きましたが、その多くは本学にお世話になってからの活動でした。大学関係者皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。写真右：熊日賞の楯



第63回熊日賞 受賞者の横顔

【1面参照】

熊本保健科学大学 小野友道さん(78)

皮膚科医、大学経営者、文化人。各方面で業績を残す。「何を頼まれると断り切れない。雑用を引き受けるうちに人脈も広がった。受賞はその方々のおかげ」と謙遜し、細目の笑顔が人を引きつける。

89年から13年間、政府開発援助で東南アジア諸国の皮膚科医養成コースの講師を務め、たびたびタイに足を運ぶ。教員は同国やフィリピン、中国などにも広がり、母国ハンセン病防止に力を発揮している。熊本大で指導した。

「生まれついても皮膚科医になりたくて」と話す熊本保健科学大の小野友道氏。熊本市区稲野町の同大。

医師、文化人…多彩な功績

「いれずみの文化誌」など著作も多数。「人の魂は皮膚にあるのか」は熊日出版文化賞を受賞した。同じ皮膚科医で詩人の木下圭太郎(大田正雄)や与謝鉄幹らが天章などを訪ねた紀行文「五足の靴」に注目。熊日に「五足の靴の旅ものがたり」を連載した。上京の際は学会などの間を縫い、神田の古書店を巡るという。

医療系大学の学長として、新時代のチーム医療を支える人材育成を目指す。「学生には、専門性を高めると同時に広い視野を持ち、いっしょにと付き合いたい」と勧めています。(風川俊彦)

た中米の留学生らも、昌国の学会で指導的役割を担う。

2002年、皮膚科から初の熊本大医学部長に。04、07年には同大副学長として、国立全法法人化などの大学改革に尽力した。07年から熊本保健科学大学学長。

平成 25 年 6 月 21 日 熊本日日新聞掲載記事

夏期賞与支給式 船津理事長挨拶

昨年の事業報告・決算については、すでに「ぎんきょう」でご覧いただいていることと思っておりますが、誠にありがとうございます。平成 25 年度も 3 ヶ月、四半期がそれなりに順調に進行中です。やがてオープンキャンパス、夏休みと楽しみもあります。

私は、本学に長く関係してきましたが、常勤してちょうど 1 年となります。特段のことはできないのですが、立場上、大学のことをあれやこれやと思ったりします。ここで 2、3 のことを述べたいと思います。

日本の大学は 700～800 あります。本大学もその中の一つです。少子化、グローバル化の中で、どうやって特徴を出すか、差別できるか生き残りをかけて、自らの存在価値をどう主張するかとそれぞれの多くの大学が模索中です。東大、京大など有名大学は別として、総合大学などは、色々な軸があって、どの軸に集約するかは難しい。外部に発信するだけでなく、同時に内部の、学生・教職員にどう発信するのが大事だと思います。化血研のミッションは、「生物学的医薬品の開発と供給を通して感染症や疾病の予防と治療に貢献し国民の健康に寄与する」というものでありますが、このミッションは達成できなければ存在する意味がありません。本学のミッションは、保健医療分野に特化した医療技術者を育成することで、この分野で九州の中でトップクラスの大学になることであります。保健医療分野で活躍し、国家資格を持ったしっかりとした医療技術者を養成する為に、理念である「知識・技術・思慮・仁愛」に重点を置いた教育をすることが重要です。しかも、「思慮・仁愛」は、倫理性を持つ医療人の基本です。

教職員も大きく二つあり、教員と職員ですが、教育、研究をベースに学生・教員が主役であり、その裏方として支援するのが事務方であると思っています。本日の話をご参考にしていただければと思います。

今年は次年度受審予定の認証機能評価を控え、まだ 11 年目の大学ではありますが、大学としてのミッションを達成しているかどうか、自負を持ちながら、謙虚に慎重に評価に対応して行きたいと思っています。

夏期賞与支給式 小野学長挨拶

認定看護師教育課程の平成 24 年度修了生が、脳卒中リハビリテーション看護分野と慢性心不全看護分野のどちらも認定看護師全員合格という嬉しい報告がありました。また、先日、高校の進学指導の先生方にお集まりいただきましたが、75 名という今までにない数の方にお越しいただき、大学への関心が高くなっているのを感じます。入試関係の仕事も密かに始まっています。7 月末までに来年度の外部評価の申込をします。これが極めて重要なものなので、特にこの 1 年宜しくお願いします。認証機能評価の基準が 4 つになりましたが、これは楽になったということではなく、その大学がそれぞれ自己評価をきちんとしているかどうかという極めて厳しいものです。このことを夏休みから少し頭に入れておいて下さい。夏休みは、家族サービスや、論文を書く良い時間でもありますので、充実した夏休みをお過ごしください。

7月・8月の主な行事予定

7月1日(月)～15日(月)	大邱保健大生2名が医学検査学科で交換研修
7月2日(火)	高校の進路指導教員向けの進学説明会
7月6日(土)	認定看護師教育課程入学試験脳卒中リハビリテーション看護分野→7月16日(火)合格発表
7月7日(日)	進学ガイダンス(熊本学園大学) : 石丸学部長「人はなぜ“がん”になるのか」 →129名聴講と一番人気でした。 : 飯山学科長他「体験して知ろう! リハビリテーションの魅力」
7月8日(月)	夏期賞与支給式
7月12日(金)	小野学長の熊日賞受賞祝賀会・暑気払い会 (ホテル航熊本)
7月20日(土)	西里駅清掃
7月21日(日)	オープンキャンパス
7月25日(木)	業務改善事例発表会(事務職員研修)
8月1日(木)～2日(金)	MT国際シンポジウム(フィリピン)
8月8日(木)～9日(金)	職員旅行(霧島)
8月8日(木)～20日(火)	本学学生5名がコロン大学(タイ)で交換研修
8月10日(土)～20日(火)	本学学生5名がGlobal Student Leadership Program(大邱保健大学)に参加
8月12日(月)～16日(金)	教職員夏期休暇
8月25日(日)	オープンキャンパス
8月28日(水)～29日(木)	合同中堅職員研修(崇城大学)

*

大邱保健大学との調印式

6月24日(月)・25日(火)に大邱保健大学のナム学長他3名の方々が本学を訪問されました。これまで医学検査学科のみ行っていた2週間の交換研修を、来年度から看護学科やリハビリテーション学科にも拡大する為に話し合い、調印式を行いました。

写真は、調印式の時のもので、船津理事長が参加されました。当日は、大邱保健大学を卒業後、今年の春から本学の大学院に通っている朴珍河さんが、今学んでいることについてプレゼンテーションをされ、大邱保健大学の方々も熱心に聞いておられました。



阿蘇市との災害時における包括的連携

本学と阿蘇市が、災害時における包括的な連携に関する協定を締結しました。この協定は、地震及び風水害その他の災害発生時に双方の人的・知的・物的資源を有効かつ積極的に活用し、被害を最小限に食い止め、安心して暮らせる地域を創ることを目的としたものです。5月には熊本市と災害時における「福祉避難所」に関する協定を結んだばかりですが、本学の特色を活かしてこのような結びつきが増えることは、とても有難いことです。



安藤忠雄講演会

6月20日(木)に安藤忠雄講演会「可能性をつくる」を県立劇場で開催し、悪天候にも関わらず、1600名もの方々にご来場いただき大変盛況でした。終始笑い声が絶えず、会場中が、安藤氏の世界に引き込まれている様子でした。



進学説明会

7月2日(火)に高校・予備校の先生方をお招きし、進学説明会を行いました。大学概要や入試概要などの説明の他、「リハ各分野の特徴



～PT・OT・ST～」というテーマで、飯山リハビリテーション学科長他、各専攻長が公開講座を行いました。本学のことのみならず、PT・OT・STのそれぞれの職業について知っていただく良い機会となりました。

また猛暑にも関わらず、熊本県外からの4名を含めて、過去最高の75名(昨年は70名)もの先生方にご参加いただきました。

私大協ボウリング大会

6月29日(土)に熊本県私立大学協会 第40回親善ボウリング大会が開催され、熊本県私立大学協会会長の小野学長が開会挨拶、始球式をされました。本学からは、お揃いのポロシャツを着て、上田法人局長、今村入試広報課長、河瀬学務課長、久保田さん(就職・実習支援センター)、小村さん(入試広報課)、水野さん(入試広報課)、宇和さん(総務課)の7名が参加しました。今年は、9大学中7位とふるわず、前回の3位から順位を下げました。優勝は3日間練習された崇城大学(アベレージ134)でした。

